

授業科目名	アカウンティング入門	担当教員 小畠 克典			
必修の区分	必修				
単位数	2 単位				
授業の方法	講義				
開講年次	1年第3クオーター				
講義内容	<p>経理や会計関連の職に就くか否かに係わらず、民間組織の利益やコストに対する理解は、組織人に必要なリテラシーのひとつである。民間企業の営業部門なら、売上に加えて原価や粗利についての理解が必要となる。製造部門なら、減価償却費や原価計算は当然理解していなければならない。また、組織人として、出張旅費や交際費の精算などは避けて通ることはできない。</p> <p>したがって、決算書が読めるだけではなく、基礎からしっかりととした会計の知識を身につけておくことが重要となる。本講義は会計の初学者を対象とし、網羅的に基礎から会計の基礎知識を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>(1) 民間組織の経理部門では、コンピュータを活用した効率化が飛躍的な進化を遂げている。しかし、コンピュータは計算・集計の道具であり、データを基に分析し、その会計処理を決定するのは、簿記を始めとする会計知識を持った人である。組織人にとって、最低限の会計基礎知識を身に付ける。</p> <p>(2) 本講義履修後には、日本商工会議所が主催する日商簿記検定3級に合格できる力を身に付ける。</p>				
授業計画	<p>第1回 イントロダクション。おカネを測るということ。小遣い帳から複式簿記へ</p> <p>「富」「金銭」「価値」の計測が、古来、わたしたちの生活・事業活動にどのように関わってきたかを振り返り、「アカウンティング」を理解することの意義を共有する。</p> <p>第2回 財務諸表の全体像</p> <p>現在ひろく使われている財務諸表「貸借対照表」「損益計算書」の全体像を共有する。</p> <p>複式簿記に基づく財務諸表を用いて、当該企業の実態を一枚絵で直感的に理解する手法についても学ぶ。</p> <p>第3回 具体的に帳簿をつける (1) おカネの出入りを伴う取引</p> <p>この回から、具体的な個別の「記帳」「仕訳」について学ぶ。まずは、現金・預金の出入りを伴う取引がどのように記帳されるかを理解する。</p> <p>第4回 具体的に帳簿をつける (2) おカネの出入りを伴わない取引</p> <p>具体的な取引ではあっても、必ずしも現金・預金の出入りを伴わない取引について学ぶ。手形・小切手など、一般の生活では見慣れない取引の意義と性格について学ぶ。</p> <p>第5回 具体的に帳簿をつける (3) 仕訳と総勘定元帳、伝票</p> <p>日々の取引の仕訳について振り返って概括する。同時に、仕訳から転記して作成する総勘定元帳の位置付け、他の補助台帳の役割等について学ぶ。</p> <p>第6回 具体的に帳簿をつける (4) 1年を終えたところで帳簿を締める①</p>				

	<p>事業のサイクルは、通常、1年で一区切りをつける。この回からは、会計手続き上「一区切りをつける」とはどういうことかを学ぶ。この回では、期をまたいで継続する取引の処理について学ぶ。</p> <p>第7回 具体的に帳簿をつける（5） 1年を終えたところで帳簿を締める② 実際に取引が起きているわけではないが、事業の価値を測る上で必要な諸々の記帳・手続きについて学ぶ。</p> <p>第8回 決算書を作成する 仕訳・決算整理を経て、精算表を作成し、決算書を作成する。ここで、個々の仕訳の集積が一枚絵としての財務諸表に行き着く一連のプロセスが完結する。この回では、株式会社にとっての複式簿記・決算手続きの意義についても学習する。</p> <p>第9回、第10回 事業活動を帳簿に翻訳する これまで学習してきた仕訳・総勘定元帳・決算整理・財務諸表作成のプロセスを、具体的な事例に照らして振り返る。</p> <p>第11回 キャッシュフロー経営 / 様々な会計の姿 「貸借対照表」と「損益計算書」では直接に読み取れない指標「キャッシュフロー」について概観する。また、一旦事業法人の会計とは性質が若干異なる公会計、非営利法人の会計等も概観する。</p> <p>第12回まとめ。おカネと上手に付き合っていくために</p>
事前・事後 学習	<p>教員が指定したテキスト該当箇所に事前・事後に目を通すことは必須ではないが、授業のより精確な理解に役立つ。</p> <p>授業のテーマに沿って課題の提出を求めることがある。課題の提出状況・内容は、成績評価の対象となる。</p>
テキスト	『合格テキスト日商簿記3級 Ver.14』TAC, 2023年2月。
参考文献	都度指示。
成績評価 の基準	受講態度（出席、授業中の議論への貢献）25% 課題の提出状況・内容 25% 期末試験 50%
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	経営分野の実務経験を持つ教員が、その経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	・本講義を通して、財務・会計制度について日商簿記検定3級合格者と同等の理解が出来ることを目指す。「簿記検定3級合格」を具体的な目標とする学生は、担当教官に個別に相談のこと。